

疫学（臨床）研究実施についてのお知らせ

大阪市立大学大学院医学研究科

放射線診断学・IVR学

【研究課題名】

肝細胞癌に対する DEB-TACE 後の局所再発因子に関する検討

【研究期間】

倫理委員会承認後 ～2017 年 10 月 30 日

【研究の意義・目的】

肝細胞癌の標準的治療である肝動脈化学塞栓療法（TACE）には主に2つの方法がある。一方はヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル（リピオドール）と抗癌剤の懸濁液動注しゼラチンスポンジ細片を用いて塞栓するconventional-TACE（c-TACE）である。これに対し、球状塞栓物質（ビーズ）に抗癌剤を含浸させたDrug-eluting bead（DEB）を用いたDEB-TACEの2つの方法がある。

このうちc-TACE後の局所再発のリスクファクターについてはすでに複数の報告があるが、比較的新しい治療であるDEB-TACEに関しては局所再発のリスクファクターに関する報告がない。このため、症例ごとの治療方法の選択には一定の見解が得られていないのが現状である。この局所再発因子を明らかにすることにより、臨床で患者ごとに治療を選択するにあたって、より適切な治療を判断する基準となりうる。

この研究では、肝細胞癌に対する DEB-TACE 後を行った症例を後方視的に検討することにより、腫瘍局所再発に関するリスクファクターを明らかにすることが目的である。

【研究の方法】

後ろ向き観察研究

研究期間内に肝細胞癌に対し DEB-TACE を行った患者について、術前画像検査や血液検査データと治療時の画像、治療後の画像検査についてデータベースを作成する。そのデータを用いて統計学的解析を行う。

【研究組織】

研究代表者 山本 晃

実施分担者 前林 真理子

【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者 山本 晃

住所 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3

電話 06-6645-3831

FAX 06-6646-6655

E-mail radiology@med.osaka-cu.ac.jp